



# 2016年東洋交通労働組合・東洋交通共済組合共催新年会

2016年1月16日(土)、17日(日)13時より西台のトミヨシ会館2階王華にて東洋交通労働組合・東洋交通共済組合共催の新年会が開催されました。

16日・17日の2日間で194名の組合員が出席しました。

福島書記長の司会進行で開会し、菊池執行委員長より年頭の挨拶がありました。

「明けましておめでとうございます。昨年の1月には486名だった組合員が、今年の1月現在では522名となり、労働組合の最大の課題である組織拡大を実現することができました。また、2015年春闘では賞与の特別配分の上乗せを勝ち取ることができました。日頃からの皆様のご協力とご理解のおかげだと感謝しております。

## 白タク合法化を阻止

昨年のはじめは、特定地域問題について討議されていましたが、夏以降はライドシェア問題・白タク合法化一色になりました。ウーバーやリフトなどの安全輸送を蔑ろにした身勝手極まりない事業者が、一般のドライバーにアプリを使って配車をし、人を輸送させて登録料・手数



料として利益を得ようとしています。先日、スキーツアーバスの事故で15名の方が亡くなりましたが、ウーバーやリフトはこのような事故が起きても、運転手に全ての責任を負わせ、会社としては一切の責任を負わないというのです。こんなことが合法化されようとしています。我々の職場を脅かすのはもちろんの事、国民の安全を蔑ろにした白タク合法化を何としてでも阻止しなければなりません。

## 初乗り距離短縮運賃反対

また、事業者・経営者は、利用者へのアピールと活性化の一部として初乗り距離短縮運賃を導入しようとしています。賃金の低下を招き、現場で働く労働者を無視した実施には断固反対していきます。上部団体の全自交東京地連でも昨年からは反対運動を進め、声明文を提出しました。利用者にも理解を求める為、宣伝行動を行っています。ご協力頂いている反対署名も東タク協へ要請として提出しますので、今後も引き続きご協力をお願いします。

## 安全と品質向上

今、我々がしなければならないことは、タクシーでなければダメだとお客様に思ってもらえる事です。それは、お客様が利用したい時に乗車できること。自分の都合で仕事の場所を選ばず、全ての無線配車に添えて下さい。そして地理の勉強を怠らず、迅速な判断と快適な安全輸送を提供して下さい。それが全部できて初めてプロドライバーです。そのプロドライバーが、どこにも負けない品質の接

客、接遇でお客様をお乗せするのが桜にNのタクシーなんです。皆さんがリーダーシップの一員として、タクシーで働く乗務員の手本となり、業界全体の品質向上に務めて下さい。

## 政治変革と参議員選挙

政策のことについては、派遣法や労働法制改悪、憲法違反であろうと国民を犠牲にしても自分達さえ良ければいいと暴走している安倍政権に歯止めをかける必要があります。今年の7月には、第24回参議院議員通常選挙が行われますが、今こそ私達の声を国会へ届けてくれる候補者を一人でも多く当選させ、もう一度ねじれを作り出す事が重要だと考えます。本日来賓でお越し頂いている全自交が推薦を決めた民主党の田城郁議員がその一人です。同じ公共交通機関を担うJRで山手線の運転士を務め、労働組合出身者でもあります。特に交通政策にも精通され、実績のある議員であります。東洋交通労組の旗開きにわざわざお時間を作って頂き、思いを伝えたいと事でご参加頂きました。それほど、危機的な状況だということをご理解頂きたいと思えます。

2016年も東洋交通労組は、政策闘争にも手を抜かず、単組では東洋交通の乗務員で良かったと思っただけの活動に全力を注いで参ります。引き続き、変わらぬ団結とご理解ご協力をお願い申し上げます。

続いて、民主党の田城郁参議院議員よりご挨拶を頂きました。



全自交推薦  
民主党・田城郁議員

## 平和運動と労働運動

「全自交労連より、いち早く推薦を頂いたことに感謝申し上げます。

私はJR東日本の社員として山手線の運転士を17年務め、労働組合の専従役員も経験しました。9・11のテロの後には、組織の代表として100万人の難民の支援活動で5年間アフガニスタンに行きました。そして2010年の参議院議員選挙で初当選をし、現在5年半が経ちました。交通労働者の代表として交運労協でも関東の副議長をしてきたので、陸・海・空で働く者の代表として国政の中でしっかりと現場の声を反映させることに力を注ぎました。

## 白タク合法化を許さない

一度のタクシー改正特措法にも携わりました。特定地域の関係についても、地方の賃金・労働条件、業界全体の安全性が高まらなければ意味がないということは何度も指摘してきました。そして、現在のウーバーやリフト等の白タク合法化問題についても『命か金か』を問われている問題だということも幾度も発言してきました。二重免許を取り、車両の整備をし、乗務員の健康管理など安全への投資をして労使が向き合って必死になり、この業界を安全性・利便性のあるものにしていくと頑張っている横から、軽はずみな考えで第三者の命を預かろうとし、タクシー業界に殴り込みをかけてようとしています。

## 安全が第一

先日起きてしまった軽井沢の大型バスの事故も、『命か金か』を問われるような結果となりました。私は、公共交通機関というものは安全が第一であり、それが保証されて安心・快適というものが続くのだと考えています。